

動画制作

大東マーク工業



手軽さと低価格が売

まかな流れは、①電話での打ち合わせ②現地取材③写真・動画撮影④発注者から会社ロゴやテキスト、写真資料などの素材提出⑤映像確認・修正。

オプションとして項目の追加、DVDチャプターの作成などを用意。ナレーション（外国語を含む）や

はこのほど、ラベル用抜き加工機「LAB-COM」シリーズの機種の本格販売を開始した。

同機は間欠と輪転の両モードと、無地抜き、ラベル抜きモードに対応したコンビネーション抜き加工機。モードの切り替えはタッチパネルで選択し、

最大スピードは毎分60枚（間欠時30枚）と、印刷と連動した快適な運用ができる。シンター幅は「LAB-COM U-200」が200mm、「U-300」が300mm。400mm幅の搭載実績もあり、最大で600mm幅まで搭載可能。ラベルピッチは1mm

顔

を繰り返した結果、品質と価格の伴う小ロット多層ラベルの製造法を考案し事業化できました。

ある日、当社のホームページを見たという電子部品会社から変わった依頼が舞い込みました。狭小スペースに対して表示しなければならぬ情報が多すぎて困っていたというその会社に当社の製品を評価いただき、現在、工業分野でも多層ラベルが役立つと思います。

モノを作りたいという意思があり、数ある印刷会社の中から当社にお問

る方法を考えます。利益率だけの問題ではなく、モノづくりの工夫という楽しみがそこにあると思

今、企業は設備投資が困難な時期です。そこで重要なのが、組合をはじめ正礼青年部を代表して参加している印青連（印刷産業青年連絡協議会）の存在です。会社や業態の垣根を越えて出会った仲間が、私にとって強力な「第2工場」です。

こうして、仲間と相互に協力しながら仕事の領域を広げ、今後も安易に断らない会社・社会に必要とされる会社を目指していきたいですね。

垣根越える「第2工場」

シール・ラベルの印刷事業を展開し今年4月に創業40周年を迎える当社は、多層ラベルの小ロット供給を実現しました。

「スピードくじを作りたいのだけど少量しか使わないし、期間限定なので大量には要らない」というお客さんの要望がきっかけでした。それに何とか応えられないかと考え、手持ちの設備を駆使して社長と現場で試作



(有)カムシーリング 城 篤史さん

い合わせただいては以上、それを安易に断るの失礼だと思ひます。多層ラベルのときもそうでしたが、得意な会社に出せば解決しますが、ますます社内内で製造す

も、それ自体は印刷機な訳です。必ずしも通すものが粘着紙である必要はありません。かつて厚紙を断裁して「連続した紙」に自社で加工したこともありました。印刷、ラミネーション、カス上げという多彩な機構を備えているので、従来通りのラベル印刷という既存概念

「たい」と期待を込める。製品はすでに有名ラベルや美容室、病院などの装飾した点字版を募集し

無償で点字学習

(株)キンケ 代田区東福

は現在、都

および高

同社「点字

した点字版

を募集し

トアヘッド

「ウォールタトゥー」提案

など自然をモチーフにしたものが多く、組み合わせる貼り付けることで、ユーザー独自の演出が楽しめる

で、パソコンなどに貼る小型のものは10000円（すべて税抜き）から。

日高社長は「日本でも部